

平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 滋賀県

事業名称 医療関係

1 事業の目的

滋賀県が提唱する8つの未来戦略のなかに「地域を支える医療福祉・在宅看取り」と「命と暮らしを守る安心・安全」プロジェクトがある。この一環として「病理診断迅速返却システムの構築」と「地域を支え繋ぐ医療専門職育成事業」が取り入れられている。本事業は、この中でがんを診断する病理医が決定的に不足している状況を、ICTを活用し省力化することで予備力を増やしそれを相互支援に回すとともに迅速に質の高い病理診断を提供することによって地域医療の円滑化・迅速化を図ろうとするものである。

2 事業の概要

病理医のいない病院や診療所と標本作製施設、病理医のいる施設を結ぶICTネットワーク、病理医間を結ぶICTネットワークを形成する。このために、ネットワーク回線を準備し、テレポーティングとバーチャルスライドによるテレパソロジーのシステムを構築する。まず、診断者グループを結成し、相互支援のプログラムを提示する。漸次、参加病理診断者を増やしていく。次に、病理医はいないが病理検査技師のいる病院と診断者グループを結び、主に術中迅速診断支援ネットワークを形成する。

更に、病理医のいない病院や診療所と検査センターなどの標本作製施設、病理医のいる施設を結ぶ通常病理診断迅速返却のシステムを構築する。

また、医療専門職の育成や教育支援を行う。

3 事業の実施概要（詳細は次ページ以降参照）

遠隔病理診断ネットワークシステムについては、当センターと滋賀医科大学医学部附属病院、大津赤十字病院が中心に、診断グループの構築、市立長浜病院を手始めに依頼グループの整備、臨床検査技師研修の推進および精度管理等の枠組みの整備と共に、ネットワークの一部運用を開始した。

医療専門職の育成については、病理標本切り出しマニュアル等をホームページに掲載し、自己学習ができるよう整備をした。

健康情報提供については、病気の正しい知識や予防策を医師が解説する映像をHPから動画配信できるように整備するとともに、保健所、市町とリンクを張り、さらにコンテンツをDVDにし、病院・施設に配布することで広く県民に活用されるよう整備を行った。

I 人材育成・活用成果

1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

① ICT人材の育成人数

少なくとも県内の医療従事者すべてを対象とする事業展開を考えている。また、ICTの手段を利用しての人材育成の手段を採ろうとしているため、一般県民や他県のものにも提供し、人材育成を図ることが出来る。実質的には、県内病理医 24 名、病院臨床検査技師 60 名、保健所職員 7 名、県庁・市町職員 20 名、他県協力者 5 名と多数の一般県民を念頭に置いて活動する。

② ICT人材の育成方法

病院医師については、滋賀県病院協会での説明や滋賀県ICT地域協議会(作業部会)での活動、「遠隔病理診断ネットワークシンポジウム」を通じて当センター研究所長の真鍋(病理医)が中心となり、事業の仕組みや詳細を各病院、診療所に浸透させている。

診断グループへは、当センターのICT技術職員が滋賀医科大学附属病院、大津赤十字病院へ直接出向いてネットワークの仕組みについて説明を行った。

依頼グループへは、市立長浜病院のネットへの接続を病院職員と共同で行うなど手厚い指導を行うと共に、試行的に先行実施する市立長浜病院へ成人病センターから病理医を派遣し、バーチャルライドの運用を開始した。

病院臨床検査技師の育成については、契約期間で技師が病理標本の作製を自己学習できるようホームページを整備した。

保健所職員、県庁・市町健康福祉担当職員については、県から健康情報の発信が行えるよう動画配信をホームページに整備すると共に、該当ホームページにリンクを張ることで自らの事業で活用されるよう県庁から各保健所、市町健康福祉担当課へ依頼した。

また、県内病院や老健施設へは、健康情報発信事業のお知らせと活用を兼ね、作成したDVDを見本として配布することで、患者や入居者向けの健康教育(指導)として活用され、広く健康情報発信サイトの周知を行うことで利用普及の環境整備を行った。

さらに、一般県民(主に健康に興味のある高齢者)については、「健康」という身近な題材を通してテレビ放送、動画配信、DVD閲覧(病院、老健施設)と複層的な取組で利用促進を図った。

③ 1で育成等したICT人材の活用人数

現在のところ県内病理医 24 名に本事業についての概要を説明し、理解・協力をお願いし、少なくとも 10 名の病理医の参加を得た。病院臨床検査技師の育成はまだ行われていないが、当センター研究所と滋賀医科大学との間で教育体制の整備が図られている。

④ ICT人材の活用方法

病院医師については、遠隔病理診断の診断者または依頼者としての役割を担うこととなる。

病院検査技師については、病理医のいない病院の実施主体として本システムの中心を担うこととなる。

保健所職員および県庁・市町職員については、作成・発信している動画サイトを自身の健康教育に活用することで事業の推進を図る。

一般県民については、動画サイトの閲覧やDVDの視聴を通し、関係動画サイトへの周知を図り、利用していく環境整備を行うことで広く人材の育成を図る。

⑤ 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

当事業年度については、整備を図ることを中心とした事業展開であり、ICT人材の育成・活用は主には次年度以降に実施されることとなる。機器の整備については、順次行われていくことから、整備に併せてICT人材もネットワークを中心に活用が図られることとなる。

（将来的には以下の人員が育成・活用されることとなる見込み）

病院医師	24名（県内病理医）
病院臨床検査技師	60名（60病院）
保健所職員	7名（7保健所）
県庁・市町職員	20名（1人+19市町）
他県	5名（京都府）
一般県民	多数

2 事業運営主体におけるICT人材の育成・活用内容

① ICT人材の育成人数

関係職員6名（医師2名、臨床検査技師1名、事務1名、ICT技術者2名）

② ICT人材の育成方法

ICT関係事業者を通じての実地操作等

③ 1で育成等したICT人材の活用人数

関係職員6名（医師2名、臨床検査技師1名、事務1名、ICT技術者2名）

④ ICT人材の活用方法

県内病院、関係機関への説明や実地指導を行う。

⑤ 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

当センターに設置された人材育成センターで医療現場で働くICT職員の育成を行っていく。

II システム構築・活用成果

1 構築システム概要

病理部門システムに、ネットワーク展開可能な機能を付与し、IP-VPN網に設置したもので、本質は「病理所見の迅速交換システム」である。

実際の病理組織標本をデジタル化して作ったバーチャルスライドとの連携を前提とする余裕をシステムに持たせてあるため、利用者がバーチャルスライドに接続すれば、即座に画像を見て診断（テレパソロジー）し、迅速返却システムで診断書を送付することが出来る。デジタル化に5分程度、オ

ンライン上で診断書が出来れば発送（テレリポーティング）は秒単位である。そのため、「術中迅速診断」や「コンサルテーションによる精度管理」にも対応可能となる。

ユーザーライセンスがフリーである事およびASP型システムである事から、市販のWindowsPCを追加費用負担なく利用端末にできる汎用性を有する。また、IP-VPN網による堅牢性を有するが、その回線網にNTT社・フレッツVPNワイドを利用することで利用者負担を低く（月額1890円）抑えている。端末・回線における上述の工夫により、導入時の利用者負担を低く抑えることが可能である。

2 システム設計書

別添2のとおり

3 システム運用で得られた成果

- （1）回線について、バーチャルスライドメーカー各社に呼びかけを行い、「メッシュネットワークを展開した際に、ライセンス料で事業が破綻する可能性」や「利用者の操作環境における共通化を目指していく必要性」などのネットワーク事業の展開における課題を、共有してもらいつつある。
- （2）テレパソロジー、テレリポーティングにより短時間で診断書返却が可能であること、搬送の手間（標本の梱包、運送、受け取り手続き、検鏡前の標本の整理、診断後の標本の梱包、運送の準備と運送などに要する時間と人手）を省くことが出来ることが実感された。

4 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

標本作製施設の設置機器経費負担（地域医療再生基金では半額補助）が一番の課題となりそうである。また、病理医のいる診断グループでも精度管理を行う場合には、バーチャルスライド取り込み装置が必要になってくるが、病院側自体には設置するメリットが少ないことから、費用負担の面で課題が生じている。地域医療再生基金担当部局に問題を提起し特例的な取り扱いが可能か確認を行っている途中である。実際の運用に関しては、保険医療として出来る部分、出来ない部分があり、診断料金設定を含めルール作りが必要となる。

当ネットワークの要は、病理医のいない病院で病理標本作製し、バーチャルスライドに取り込む作業を行う臨床検査技師であり、機器の整備と同時に技師の養成を行う必要がある。

公的病院でも人員に余裕はないが、それ以上に民間病院の場合では、技師の養成に必要な時間を割いてもらうことが難しいため、より研修内容を工夫し、病院側や技師本人にできるだけ少ない負担で養成していけるよう研修プログラムの改良が整備の進捗に大きく影響してくる。

また、病院間同士の事業展開を考えてきたが、これからの医療のあり方を考えると、診療所まで含めた連携が不可欠であり、官民挙げての取組として、検査業界まで取り込んだネットワークを構築していくことで事業の効果を上げる必要がある。

5 自律的・継続的運営の見込み

滋賀県基本計画に位置付けられた施策として、計画的に事業の企画立案をしていくことで資金的には継続していける。

当事業の実施体制は、当センター、滋賀医科大学医学部附属病院、大津赤十字病院を中心とした「ICT 地域協議会」と事務作業を受け持つ「作業部会」で構成されており、この数ヶ月で運営母体ができあがったことから、この母体を中心に今後も事業の実施ができるものと思料する。

6 今後の展開方針

(1) 遠隔病理診断ネットワーク関係

当システムの展開には、病理医はいないが術中迅速診断を希望する病院にバーチャルスライド取り込み装置などの機器を整備していくこと、病理検査技師を育成していくことが不可欠であり、平成 22 年度補正事業(厚生労働省)の地域医療再生基金を活用して整備を進めていくこととなる。当基金により、平成 25 年度末までに地域性を考慮しながら整備を進め、診断体制を確立していく。以下、今後の展開方針を箇条書きしておく。

- ① 術中迅速診断に対応するネットワークへの参加施設を増やすとともに、診断施設の増加を目指す。滋賀県病院協会との協力で行う。
- ② 通常病理診断への応用を図る。
 - i. 参加診療所を募る。滋賀県医師会の協力で行う。
 - ii. 参加標本作製施設を募り、バーチャルスライド取り込み装置を配置する(再生基金からの補助が必須)。
 - iii. i、ii の施設と診断者を、提供するネットワークに接続する。
- ③ 通常病理診断の病理医相互支援を図る。
 - i. 参加病理医を募る。
 - ii. バーチャルスライド取り込み装置を配置する。
 - iii. ネットワークに連結する。
 - iv. 診断時に、適宜診断支援を行う(報告書返却前精度管理)
- ④ 報告書返却後精度管理へ応用する。
 - i. 参加病理医を募る。
 - ii. バーチャルスライド取り込み装置の存否を確認し、必要であれば配置する。
 - iii. ネットワークに連結する。
 - iv. 被監査病理医の診断した症例のうちから 10%の症例をランダムに抽出する。
 - v. 監査病理医による監査(病理診断および報告書記載内容のチェック)を行う。
- ⑤ 運用ルールを作成する。
- ⑥ 診断者拡大のための法的支援を確立する。
- ⑦ 事業展開の啓発、周知に努める。
- ⑧ 他県ネットワークとの連携を図る。

(2) 健康情報の発信

引き続き、健康情報の発信を行うことで、広く県民に健康情報を提供するとともに、ICTに親しむ機会を作っていく。

(3) 医療領域に機能するICT人材の育成

当センターに設立した人材育成センターで、病院医療機関で働くICT技術職員の育成・教育を実施する。

(4) 病病診在宅の医療体制のICT利活用の展開

将来の医療を見据えて、地域医療連携の展開を考案していく。

III 実施体制

1 実施体制

滋賀県ICT地域協議会

(目的) 遠隔病理診断ネットワークの円滑な運用により、県内の病理医不足によるがん診療の遅れを解消し、がん医療の均てん化を図る。

主体：滋賀県（滋賀県立成人病センター）

協力：滋賀医科大学医学部附属病院、大津赤十字病院

実施：作業部会（3病院中心）

2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	滋賀県ICT地域協議会	遠隔病理診断ネットワークシステム等の運用策定
2	同 作業部会	協議会の実働体、診断病院3機関を中心に構成
3	滋賀県立成人病センター 経営企画室	協議会事務局
4	滋賀県立成人病センター 医療情報室	当センター内外のネットワークの調整
5	滋賀県立成人病センター研究所	診断グループの中核として診断の実施 人材教育の実施(臨床検査技師)
6	滋賀医科大学医学部附属病院	診断グループの一角として診断の実施
7	大津赤十字病院	診断グループの一角として診断の実施

3 事業実施進行表

実施内容	H23					
	2月	3月	4月	5月	6月	7月
協議会等設立・準備会合		→				
協議会等開催				▲		▲
協議会作業部会指導					→	
健康情報提供プログラム作成		入札 →	収録 →		編集・納品 →	
シンポジウム			準備 →			▲
システム稼働	入札 →		システム設計・構築 →			稼働 →
報告書作成						→

IV 本事業に関する周知・広報等

1. 本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] http://www.pref.shiga.jp/e/seijin/info_effort_04.html

[滋賀県立成人病センター > 健康情報の発信]

<http://www.youtube.com/watch?v=ddPS-A9zfUE>

[前立腺がんとはどんな病気ですか？YouTube（限定公開）]

<http://www.youtube.com/watch?v=3c8jTmPX5mY>

[前立腺がんは、どうやって見つけるの？YouTube（限定公開）]

<http://www.youtube.com/watch?v=iAj8recTo6A>

[前立腺がんの治療法（1）YouTube（限定公開）]

http://www.youtube.com/watch?v=_Sxd7Q7Cass

[前立腺がんの治療法（2）YouTube（限定公開）]

http://www.youtube.com/watch?v=1SJR_LbUm9s

[“血液がんとは” ～どんな病気？治るの？～YouTube（限定公開）]

<http://www.youtube.com/watch?v=l8VtelzhciI>

["白血病" ～診断と治療～YouTube (限定公開)]

<http://www.youtube.com/watch?v=DQG6kXjex58>

["悪性リンパ腫" ～診断と治療～YouTube (限定公開)]

<http://www.youtube.com/watch?v=koBjIdBKIEs>

["血液がんと移植療法" ～幹細胞移植のいろいろ～YouTube (限定公開)]

[2] <http://www33052u.sakura.ne.jp/> [病理診断教育支援機構]

[3] <http://130.54.99.54/vod/m-vod/vis01/index.asp>

[VISUALEARN : 京都大学人間健康科学系専攻]

2. メディア等での紹介

3. その他



診断病院側



滋成セ 328 号
平成23年(2011年)7月14日

健康福祉部健康推進課長 様

県立成人病センター総長 (公印省略)

健康情報発信事業の活用について (依頼)

総務省の地域ICT活用広域連携事業の委託経費を活用して、県民向けに健康情報の発信を行う事業を展開することとしたところですが、当事業により収録したコンテンツが出来上がり、この度、当センターホームページ上でユー・チューブによる動画再生が可能となりました。

つきましては、県内各保健所や各市町の健康福祉担当部署とリンクを張ることで広く県民に活用いただきたいと考えておりますので、貴所属より関係先へ情報の提供をお願いします。

記

- ・ URL : <http://www.youtube.com/watch?v=ddPS-A9zfUE>
<http://www.youtube.com/watch?v=3c8jTmPX5mY>
<http://www.youtube.com/watch?v=iAj8recTo6A>
<http://www.youtube.com/watch?v=Sxd7Q7Cass>
http://www.youtube.com/watch?v=1SJL_LbUm9s
<http://youtube.com/watch?v=18Vtelzhcil>
<http://www.youtube.com/watch?v=DQG6kXjex58>
<http://www.youtube.com/watch?v=koBjldBKIEs>

滋成セ 329 号
平成23年(2011年)7月14日

各病院長 様

滋賀県立成人病センター総長
(公 印 省 略)

健康情報コンテンツ(DVD)の送付について

盛夏の候、貴病院におかれてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、県民向けの健康情報番組「いきいき健康ライフ」については、びわ湖放送(株)との協力の下、番組の放映を実施しているところですが、この度、総務省の資金で4月、5月放映分をDVDにすることができましたので、貴病院で活用いただきたくご送付させていただきます。

なお、今回ご送付しました内容も含め、今後は各シリーズの動画配信を当センターホームページからできるよう整備しましたので、ご活用いただきますようご案内します。

※ DVDの活用状況を把握したいので、別紙アンケート用紙を同封します。

FAX等でご返送いただければ幸いです。メールでご回答される方は、下記メールアドレスまでお申し出いただきましたらデータを送付しますので、ご協力の程よろしくお願ひします。

滋成セ 329 号
平成23年(2011年)7月14日

各医師会長 様

滋賀県立成人病センター総長
(公 印 省 略)

健康情報コンテンツ(DVD)の送付について

盛夏の候、貴段階におかれてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、県民向けの健康情報番組「いきいき健康ライフ」については、びわ湖放送(株)との協力の下、番組の放映を実施しているところですが、この度、総務省の資金で4月、5月放映分をDVDにすることができましたので、貴団体で活用いただきたくご送付させていただきます。

なお、今回ご送付しました内容も含め、今後は各シリーズの動画配信を当センターホームページからできるよう整備しましたので、ご活用いただきますようご案内します。

※ DVDの活用状況を把握したいので、別紙アンケート用紙を同封します。

FAX等でご返送いただければ幸いです。メールでご回答される方は、下記メールアドレスまでお申し出いただきましたらデータを送付しますので、ご協力の程よろしくお願ひします。

滋成セ 329 号
平成23年(2011年)7月14日

各施設の長 様

滋賀県立成人病センター総長
(公 印 省 略)

健康情報コンテンツ(DVD)の送付について

盛夏の候、貴施設におかれてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、県民向けの健康情報番組「いきいき健康ライフ」については、びわ湖放送(株)との協力の下、番組の放映を実施しているところですが、この度、総務省の資金で4月、5月放映分をDVDにすることができましたので、貴施設で活用いただきたくご送付させていただきます。

なお、今回ご送付しました内容も含め、今後は各シリーズの動画配信を当センターホームページからできるよう整備しましたので、ご活用いただきますようご案内します。

※ DVDの活用状況を把握したいので、別紙アンケート用紙を同封します。

FAX等でご返送いただければ幸いです。メールでご回答される方は、下記メールアドレスまでお申し出いただきましたらデータを送付しますので、ご協力の程よろしくお願ひします。

DVD配布先リスト

郵便番号	所在地	送付先
520-0804	大津市本宮2-9-9	大津市民病院
520-0806	大津市打出浜10-41	打出病院
520-8511	大津市長等1-1-35	大津赤十字病院
520-0580	大津市和邇中298	大津赤十字病院志賀病院
520-0242	大津市本堅田3-33-24	堅田病院
520-2192	大津市瀬田月輪町	滋賀医科大学医学部附属病院
520-0006	大津市滋賀里1-18-41	滋賀里病院
520-0846	大津市富士見台16-1	社会保険滋賀病院
520-2142	大津市玉野浦4-21	瀬田川病院
520-2262	大津市大石淀3-8-23	中山病院
520-0002	大津市際川3-35-1	ひかり病院
520-0113	大津市坂本1-8-5	琵琶湖病院
520-0232	大津市真野5-1-29	琵琶湖大橋病院
520-0834	大津市御殿浜22-33	琵琶湖中央病院
520-2144	大津市大萱7-7-2	琵琶湖養育院病院
520-0242	大津市本堅田5-22-27	山田整形外科病院
525-0054	草津市東矢倉3-34-52	近江草津徳洲会病院
525-8585	草津市矢橋町1660	草津総合病院
520-3046	栗東市大橋2-4-1	済生会滋賀県病院
525-0055	草津市野路町1529	南草津病院
525-0032	草津市大路3-3-6	宮脇病院
525-0072	草津市笠山8-3-113	びわこ学園医療福祉センター草津
525-0059	草津市野路1-13-3	南草津野村病院
520-2331	野洲市小篠原1094	野洲病院
520-2321	野洲市北桜978-2	びわこ学園医療福祉センター野洲
524-0022	守山市守山4-14-1	守山市民病院
520-2433	野洲市八夫2077	湖南病院
528-0014	甲賀市水口町鹿深3-39	公立甲賀病院
529-1803	甲賀市信楽町牧997	国立病院機構紫香楽病院
528-0031	甲賀市水口町本町2-2-43	水口病院
529-1851	甲賀市信楽町長野473	甲賀市立信楽中央病院
520-3321	甲賀市甲南町葛木958	甲南病院
520-3242	湖南市菩提寺104-13	生田病院
520-3223	湖南市夏見1168	甲西リハビリ病院
523-8523	近江八幡市北之庄492	ヴォーリス記念病院
523-0082	近江八幡市土田町1379	近江八幡市立総合医療センター
523-8503	近江八幡市鷹飼町744	八幡青樹会病院
529-1572	東近江市桜川西町340	東近江市立蒲生病院
529-1642	蒲生郡日野町上野田200-1	日野記念病院
527-8505	東近江市五智町255	国立病院機構滋賀病院
521-1223	東近江市猪子町191	東近江市立能登川病院
527-0025	東近江市八日市東本町8-16	東近江敬愛病院
529-1445	東近江市五箇荘町清水鼻町95	神崎中央病院
527-0039	東近江市青葉町1-36	青葉病院
527-0134	東近江市平松町2-1	湖東記念病院
527-0145	東近江市北坂町966	近江温泉病院
522-8539	彦根市八坂町1882	彦根市立病院
529-1168	犬上郡豊郷町大字八目12	豊郷病院
522-0054	彦根市西今町421	彦根中央病院
522-0044	彦根市竹ヶ鼻町80	友仁山崎病院
526-8585	長浜市宮前町14-7	長浜赤十字病院
526-8580	長浜市大戌亥313	市立長浜病院
526-0045	長浜市寺田町257	長浜青樹会病院
529-0493	長浜市木之本町黒田1221	長浜市立湖北病院
520-1605	高島市今津町南新保87-1	今津病院
520-1121	高島市勝野1667	公立高島総合病院
520-1822	高島市マキノ町新保1097	マキノ病院
520-3031	栗東市縹1-10-7(医協ビル内)	滋賀県医師会
520-0804	大津市本宮2-9-9(大津市民病院内)	大津市医師会

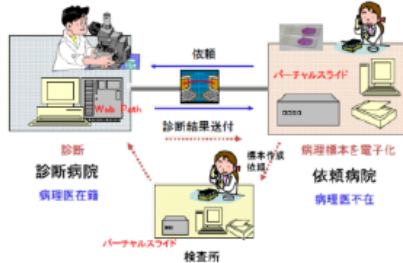
DVD配布先リスト

525-0032	草津市大路2-11-51(草津市サンサンホール内)	草津栗東医師会
524-0013	守山市下之郷町592-1(守山市すこやかセンター内)	守山野洲医師会
528-0014	甲賀市水口町鹿深3-46	甲賀湖南医師会
523-0082	近江八幡市土田町1379(近江八幡市立総合医療センター内)	近江八幡市蒲生郡医師会
529-1421	東近江市五個荘竜田町2-3(東近江市五個荘支所内)	東近江医師会
522-0041	彦根市平田町670(彦根市福祉保健センター3F)	彦根医師会
526-0244	長浜市内保町480-3	湖北医師会
520-1512	高島市新旭町太田888-1(薬園本多医院内)	高島市医師会
520-8511	大津市長等1-1-35 (大津赤十字病院内)	大津赤十字病院医師会
520-2192	大津市瀬田月輪町(滋賀医科大学総務部総務課内)	滋賀医科大学医師会
520-2144	大津市大萱7-7-3	レーク・ホロニー
520-0804	大津市本宮2-9-40	ケアセンターおおつ
520-0528	大津市和邇高城260-1	ケアセンター志賀
520-0361	大津市伊香立途中町上野704	B.O.Hケアサービスセンター
520-0846	大津市富士見台16-1	サンビューしが
520-0247	大津市仰木7-18-15	虹水苑
520-0113	大津市坂本6-25-3	日和の里
522-0044	彦根市竹ヶ鼻町80	アロフェンテ彦根
526-0828	長浜市加田町2984-1	長浜メディケアセンター
526-0111	長浜市川道町2694	琵琶
523-0806	近江八幡市北之庄町492	ヴォーリス老健センター
525-0027	草津市野村2-13-13	草津ケアセンター
525-0066	草津市矢橋町621	ケアタウン南草津
524-0016	守山市荒見町300-1	シニアセンターティファニー
520-3046	栗東市大橋2-8-2	ケアポート栗東
528-0031	甲賀市水口町本町2-2-43	スキナヴィラ水口
520-2433	野洲市八夫2077	寿々はうす
520-3112	湖南市丸山4-5-1	石部ケアセンター
520-3242	湖南市菩提寺赤込原104-14	ケアセンターこうせい
520-1121	高島市勝野1667-14	陽光の里
521-1201	東近江市新宮町558	リハビリセンターあゆみ
529-1572	東近江市桜川西町340	ケアセンター蒲生野
529-1431	東近江市五個荘山本町466	ここのちの郷
527-0039	東近江市青葉町1-46	ウェル青葉
521-0233	米原市野一色1136	坂田メディケアセンター
521-0314	米原市春照58-1	ケアセンターいぶき
529-1642	蒲生郡日野町上野田246	リスタあすなろ
529-1169	犬上郡豊郷町石畑212	バストラールとよさと
529-0426	長浜市木之本町黒田1221	湖北やすらぎの里

遠隔病理診断ネットワークシンポジウム



遠隔病理診断ネットワーク シンポジウム



平成23年7月16日(土) (於コラボしが)

滋賀県(成人病センター)は、県内のどこに住んでいても患者さんが高度先進医療を受けていただけるよう、ICTを活用して遠隔で病理診断ができるネットワークの構築に取り組んでいます。

今回は、その取り組みをご理解いただくためにシンポジウムを計画しました。

プログラム

13:00～ 基調講演会「医療分野におけるICTの利活用」

ソフトバンクテレコム株式会社営業統括

ヘルスケアプロジェクト推進室担当 深澤里巳さん

司会 真鍋俊明(滋賀県立成人病センター研究所)

14:00～ シンポジウム

「遠隔病理診断ネットワークの広域連携を目指して」

司会 土橋 康成(レイ・パストゥール医学研究センター)

「滋賀県の現状と問題点」 滋賀県立成人病センター 真鍋 俊明 先生

「長野県の現状と問題点」 信州大学 吉澤 明彦 先生

「富山県の現状と問題点」 富山大学附属病院 福岡 順也 先生

「和歌山県の現状と問題点」 和歌山県立大学 和歌山県立医科大学附属病院

中村 靖司 先生

「長崎県の現状と問題点」 長崎医療センター

伊東 正博 先生

「広域連携のために何ができるか」ソフトバンクテレコム 山田 雄二 さん

V 事業による成果

1 事業による成果（アウトプット指標）

項目	成果指数	成果指数に関する説明等	調査時期	結果についての分析等
医療者向け講演会参加者数	56人	指数とは言えないが、シンポジウム当日の状況をビデオ撮影しているので、二次活用していく。	平成23年7月16日	参加者数56人中半数の28名が医療機器メーカーからの参加であったことから、業界の期待の高さがうかがわれる。遠方（関東）の医療機関からの参加もあったことから、県を越える広域連携も視野に入れて展開となる可能性も高い。
バーチャルスライド設置病院数	以下の指標については、調査時期未到来または設置後短期間のためデータ蓄積が行えていません。適切な時期に成果を検証します。			
遠隔病理診断依頼件数				
健康情報提供サイト登録市町数				
健康情報提供サイトアクセス数				
病理検査技師育成件数				
遠隔病理診断ネットワーク参画医療機関数				

2 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期	結果についての分析
患者待ち時間の短縮時間					
遠隔地の医師不在日数の減少率					
（1日当たり）画像診断処理件数の増加率					
主観的健康度向上率（実感）					
主観的理解度向上率（実感）					
客観的理解度向上率（関係事業への従事）					
病理診断の迅速化					

依頼医療施設の満足度					
病理診断グループの負担や不満					
健康情報コンテンツの閲覧回数					
県民の健康に対する関心度の向上率					
県民の主観的健康知識レベルの向上率					
養成検査技師者数の増加					

3 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	計測方法・出展等	調査時期	結果の分析（目標値の結果が大きい）
<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワークを構成する組織体の体制整備 ・ 診断グループ間の診断試行、依頼グループとの連携試行 ・ 人材育成教材の作成 	診断グループ3病院と依頼グループ3病院の連携	61%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの項目をそれぞれ3分の1とし、それぞれの進捗割合をかける。 $1/3 \times 1/3 + 1/3 \times 1/2 + 1/3 \times 1$	平成23年7月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断グループの1つにはバーチャルスライドが未整備であることから優先的に整備する必要がある。 ・ 診断グループの内2病院のネットワーク接続が未了であることから整備を進める必要がある。 ・ 機器整備は、厚生労働省の地域医療再生基金を活用して整備を図るが、厚生労働省の交付決定が遅れていることから、全体の進捗が遅れている。 ・ 診断グループ（成人病センター）と依頼グループ（市立長浜病院）との診断試行は完了。 ・ 人材育成教材の作成は完了している。